

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-125701

(P2000-125701A)

(43)公開日 平成12年5月9日(2000.5.9)

(51)Int.Cl.

識別記号

F I

テマコード(参考)

A 0 1 K 85/00

A 0 1 K 85/00

B 2 B 1 0 7

審査請求 有 請求項の数1 OL (全 5 頁)

(21)出願番号

特願平10-301102

(22)出願日

平成10年10月22日(1998. 10. 22)

(71)出願人 598145897

株式会社 伊藤製作所

神奈川県足柄上郡中井町田中144番地

(72)発明者 伊藤 栄二

神奈川県足柄上郡中井町田中144番地 株

式会社伊藤製作所内

(74)代理人 100066061

弁理士 丹羽 宏之 (外1名)

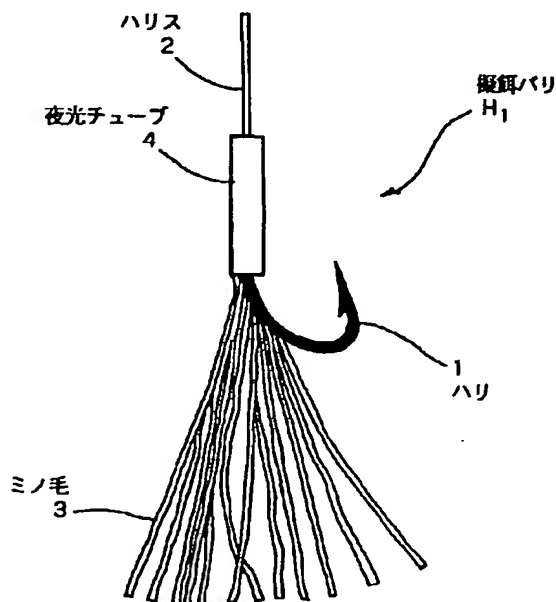
Fターム(参考) 2B107 BA34 BB01

(54)【発明の名称】 擬餌バリ

(57)【要約】

【課題】 サビキ釣りやビシ釣りなどの仕掛けに使用したとき、多種の魚を釣ることができる万能擬餌バリの提供。

【解決手段】 ハリス2を結び付けたアゴ付のハリ1と、ハリス2のハリ1への結び目部位に熱収縮性の夜光チューブ4で取り付けられた複数本のミノ毛3とよりなり、かつ前記ミノ毛3は、ハリ1の高さの2倍前後の長さを有し、海水中におけるハリの移動や海流により容易になびく弾力性を有し、透明ないし半透明の材料で作られ、オーロラの光の色に類似する色を発することを特徴とする擬餌バリ。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ハリスを結び付けたアゴ付のハリと、ハリスのハリへの結び目部位に夜光チューブで取り付けられた複数本のミノ毛とよりなり、かつ前記ミノ毛は、ハリの高さの2倍前後の長さを有し、海水中におけるハリの移動や海流により容易になびく弾力性を有し、透明ないし半透明の材料で作られ、オーロラの光の色に類似する色を発することを特徴とする擬餌バリ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、サビキ釣り、コマセサビキ釣り、ビシ釣り、カック釣り、ツノ投げ釣りなどの仕掛けに使用する擬餌バリに関するものである。

【0002】

【従来の技術】擬餌バリは、餌を使わずに餌に似たものをハリに取り付け、魚をだましてつり上げる道具である。

【0003】魚は人間よりもかなり近眼で、実験によると、人間の5分の1程度の視力であり、それでいて、海中を落ちてくる餌を発見する能力は非常に敏感であるといわれている。近眼でありながら、敏感だという点が擬餌を工夫する1つのポイントになっている。

【0004】また、色彩感覚も鋭く、赤、黄、青、紫などの色別ができ、それでいて、色の好き嫌いがあり、さまざまな反応を示すといわれている。この点も、擬餌を工夫するポイントになっている。このほか、味覚や臭覚も魚によって差がある。

【0005】さらに、魚の食生活は、小さな魚を追って食べている回遊性の中層魚、一定の場所に棲みついて餌をねらう魚、植物性あるいは動物性の餌を好む魚などさまざまなものである。また、同じ魚であっても、その魚の棲む環境によって餌の種類に差がでることもある。この点も擬餌を工夫するポイントになっている。

【0006】従来の擬餌バリは、このようないくつかのポイントを勘案しながら、魚の皮、鳥の羽根、動物の毛、麻糸、布切れなどを巧みに組み合わせて作られている。

【0007】最近では、このほかに鳥の羽根、魚の皮、動物の毛に似せて高分子材料で作った素材に発光塗料を塗布したものなども、各様に組み合わせて、擬餌として広く使用されている。

【0008】図2～図5に示す擬餌バリは、このような材料で作られたものの一例である。

【0009】すなわち、図2及び図3の擬餌バリH₂、H₃は、カマス釣りに使用するものである。前者H₂は、ハリ21のチモト部分にミノ毛23とこれを包む羽根24を取り付け、取付部分を朱玉25とした構成になっている。後者H₃はハリ31の曲がり部分に引田麻32を取り付けた構成になっている。26、33はハリスである。

【0010】図4の擬餌バリH₄は、イサキ釣りに使用するものである。これは、ハリ41の軸に鉛を巻き、これをイサキの皮を剥いて日干しにし一寸四方に切ったものの42で包み、糸43で上下二か所を結び、上下端部を細く切り小ガニの脚に似せたものである。44はハリスである。

【0011】図5の擬餌バリH₅は、アジ釣りに使用するものである。これは、ハリ51のチモト部分にサバの皮からなる羽根52を取り付け、取付部分を朱玉53としたものである。54はハリスである。

【0012】

【発明が解決しようとする課題】このように、従来の擬餌バリは、ハリの種類の多いのに負けず劣らず千差万別である。特定の種類の魚には、特定の擬餌バリを使用する人が多いからである。したがって、擬餌バリの選択を誤ったために「隣合せて釣って、自分は一尾も釣れなかった」などというとはよくあることである。

【0013】1種類の擬餌バリで多種類の魚を釣ることができれば、これに優ることはない。しかし、万能の擬餌バリは極めて少ない。

【0014】1種類の擬餌バリで色々な種類の魚を釣るには、どのような擬餌バリを作ればよいか。これは、釣り人にとって、はてることのない永遠の課題である。

【0015】本発明は、このような擬餌バリにまつわる技術的課題の解決を追求してなされたもので、サビキ釣りやビシ釣りなどの仕掛けに使用したとき、イナダ、カンパチ、アジ、カマス、イワシ、ボラ、シロギス、ヒラメ、メバル、イサキ、カンパチなどいずれの魚でも釣り上げることができる、万能ぶりを発揮する擬餌バリを提供することを目的とする。

【0016】

【課題を解決するための手段】本発明が提供する擬餌バリは、ハリスを結び付けたアゴ付のハリと、ハリスのハリへの結び目部位に熱収縮性の夜光チューブで取り付けられた複数本のミノ毛とよりなり、かつ前記ミノ毛は、ハリの高さの2倍前後の長さを有し、海水中におけるハリの移動や海流により容易になびく弾力性を有し、透明ないし半透明の材料で作られ、オーロラの光の色に類似する色を発することを特徴とするものである。

【0017】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を、実施例によって、図面に基づき説明する。

【0018】図1は、実施例の擬餌バリHの側面図である。

【0019】図において、1は丸セイゴ10号ハリで、色は金色である。2はハリ1のチモト部分に取り付けた4号のハリス、3はハリス2の結び目の上に熱収縮性の長さ3mmの青色の夜光チューブ4で取り付けられた1本のミノ毛である。

50 【0020】ミノ毛3は、いわゆるオーロラヤーンで、

この実施例では、ブルーとグリーンのオーロラヤーン各4本と、バイオレット、イエロー、ピンクのオーロラヤーン各1本からなる。いずれも、厚さ200 μ m、幅約0.5mm、長さ約33mmで、酢酸セルロース製の透明な材料で作られている。ミノ毛3は、海中において、シラスやアマッコ等の小魚に非常によく似るように、大きさ、色、長さなどが選定されている。

【0021】オーロラヤーンは、海中において、ハリの動きや海流によって容易になびくような弾力性のあるも*

*のがよい。シラスやアマッコなどの小魚の挙動に似るようになるからである。

【0022】実施例の擬餌バリHとこれと同様の構成の擬餌バリH₁、H₂を使用して表1に示す構成の船のサビキ仕掛けを作って釣りを行ったところ、表2の結果を得た。

【0023】

【表1】

サビキ仕掛けの構成								
種類	道糸 (号/m)	幹糸 (号/m)	ハリス (号/cm)	ハリス 間隔 (cm)	擬餌 バリ	種 (号)	コマセ	竿
A	PE7/7 1.5/200	5/2.4	4/5.0	25	H	15	ナシ	磯竿 4号
B	PE7/7 1.5/200	5/2.4	4/5.0	25	H ₁	10	ナシ	磯竿 4号
C	PE7/7 1.5/200	5/2.4	4/300	ナシ	H ₂	15	ナシ	磯竿 4号

(注) H: 丸セイゴ10号ハリを使用した本発明の擬餌バリ
H₁: 丸セイゴ8号ハリを使用した本発明の擬餌バリ
H₂: ツノ投げ釣りのハリのツノに本発明のミノ毛を使用した擬餌バリ

【0024】

※ ※【表2】

サビキ仕掛けの構成	釣り場	釣った魚	釣った魚の数(尾)	釣り時間(時間)	釣った日(月/日(1998))
B	大磯港	カタクチイワシ 小カマス、小アジ	各10以上	1	5/3
B	二宮海岸	カタクチイワシ	40	0.5	5/11
B	二宮海岸	カンパチ(19cm)	2	0.5	5/27
B	二宮海岸 防波堤	イワシ カマス(小)	100 20	1	6/11
B	二宮海岸 防波堤	カマス(小)	50	4	6/19
B	二宮海岸 防波堤	アジ(小)	30	1	7/12
A	二宮海岸	アジ(中) カマス(中)	20 5	2	7/20
A	二宮海岸	イナダ	1	1	8/5
A	二宮海岸 防波堤	カイワリ	4	1	8/6
A	二宮海岸	カンパチ(24cm)	2	2	8/8
C	二宮海岸	サバ(35cm)	1	1	8/24
A	二宮海岸 防波堤	白キス(25cm)	1	2	8/27
C	二宮海岸	サバ(35cm) ボラ(50cm)	12 3	3	9/3
A	二宮海岸 防波堤	カマス(大)	7	1	9/25
C	二宮海岸 防波堤	平ソウダ カウオ	1	1	9/26

【0025】なお、上記実施例では、ハリとして丸セイゴ、ツノバリを使用した。このほかにも、イサキバリ、流線長ソデ、丸型などを幅広く使用することができる。ハリスの種類も、対象魚によって適切なものを選択して使用できる。

【0026】チューブの色は、青以外にも、赤、黄、バ イオレットなど他の色を採用できる。

【0027】オーロラヤーンの発光色は、実施例ではブルー、グリーンを中心にして他の色を組み合わせた。これに限らず、他の色々な組み合わせは可能である。

【0028】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の擬餌バリ 40 は、上述のような構成としたので、イナダ、カンパチ、アジ、カマス、イワシ、ボラ、シロギス、ヒラメ、メバ*

*ル、イサキなどであれば、どの魚でも釣り上げる万能の 30 ハリとして使用することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 実施例の擬餌バリの側面図

【図2】 従来の擬餌バリの側面図

【図3】 従来の擬餌バリの側面図

【図4】 従来の擬餌バリの側面図

【図5】 従来の擬餌バリの側面図

【符号の説明】

H 擬餌バリ

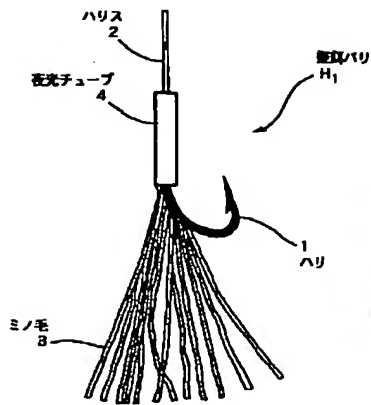
1 ハリ

2 ハリス

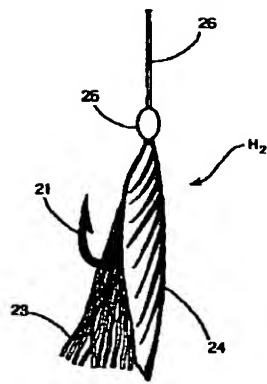
3 ミノ毛

4 夜光チューブ

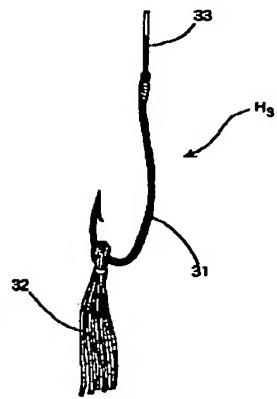
【図1】



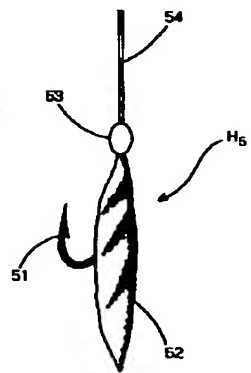
【図2】



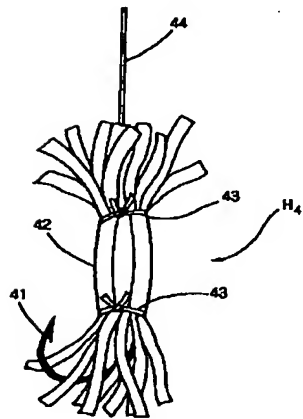
【図3】



【図5】



【図4】



PAT-NO: JP02000125701A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2000125701 A
TITLE: LURE
PUBN-DATE: May 9, 2000

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
ITO, EIJI	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
ITO SEISAKUSHO:KK	N/A

APPL-NO: JP10301102

APPL-DATE: October 22, 1998

INT-CL (IPC): A01K085/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an omnipotent plug capable of catching various fishes when applying to a tackle used for Sabiki-fishing (fishing by manually moving a lure) or Bishi-fishing (fishing using a tubular egg-shaped weight made of lead).

SOLUTION: This plug is composed of a hook 1 having a barb and bound with a leader 2 and plural Minoke 3 (colorful auroral yarn) fitted with a thermally contracting luminous tube 4 to a knot position of the leader 2 with the hook 1. Each mino hair 3 has a length about twice of a height of the hook 1 and has an elasticity readily obeyed to displacing of the hook in the sea water or the sea water current and made of a transparent or translucent material and has a color

resemble to a color of the light of an aurora.

COPYRIGHT: (C) 2000, JPO